

会員の広場



映画鑑賞の楽しみ

田川 修司（東京）

経済倶楽部では、講演会の後に選りすぐりの名画を毎回上映しています。今週はどのような映画との出会いがあるのかなと、毎週が楽しみです。毎年たくさん映画が世界中で作られ、映画館やテレビで放映されています。そして国を超えて広く親しまれていく映画を観ると、客観的な視点が磨かれたり、忘れていたこと（感謝・喜び・大事な思い出・好きなことなど）がよみがえったりと、目の前にある「辛さ・苦しさ」を小さくする効果をも期待できます。

映画は、読書と同じように、さまざまな知識を得たり他人の経験を疑似体験できたりすることも、大きな

魅力の一つといえます。海外の映画を見ることで、その国の歴史や文化などを学べるヒントが得られます。人々の暮らしや価値観なども分かり、簡単な言葉で覚えられない場合もあります。また、歴史的な人物など的一生をストーリーとして描いた内容の映画を見れば、その人物が経験した、およそ知りえないような人生を疑似体験することも可能です。

さらに、ある映画で得た知識や経験から別の分野へ興味が生じ、その分野に関する映画からまた別の分野へ興味が生まれるなど、見識を広げられる楽しさも見いだせます。映画は本と違い、さまざまなことが可視化されているため、内容に含まれる知識や経験を理解しやすいことも特徴です。

映画はストーリーが優れていれば必ずしも面白いとは限りません、ストーリーだけでなく小説でもいいわけです。カメラワーク、映像、色彩、BGM等々これらが物語を引き立てるのです。何度か観たことのある映画などはカメラワーク、または音楽、映像、どれかに焦点を当てて観てみるとまた違うように感じられ、思いもよらぬ発見があります。

好きな俳優や監督を見つけるのもまた楽しみ方の一

つです。俳優を絞って幾つかの作品を観てみると、役柄による演技の幅に驚いたり、過去の作品を遡って成長を感じたりなどの楽しみがあります。

映画のストーリーには、さまざまな伏線が隠されていることがほとんどです。会話や出来事の中だけでなく、何気ない背景にも重要な伏線が隠されている場合

があります。伏線の意味は、基本的に映画が終わるまでには明かされませんが、自ら伏線を探しつつ映画を見ることで、同じ内容の映画を何倍も楽しむことが可能となります。映画というものは、監督（プロデューサー）からの手紙だと思えます。何がどうであれ、役者がすごくても、有名でも無名でも、監督がすべて決定権を持っています。演技のその仕草や設定、背景、小道具や使われている物、音楽、ロケーション等々。すべてが、監督のメッセージを伝えるための手段です。映画のメッセージを受け止め、人生が豊になり楽しく送れるようにしたいと思っています。

定権を持っています。演技のその仕草や設定、背景、小道具や使われている物、音楽、ロケーション等々。すべてが、監督のメッセージを伝えるための手段です。映画のメッセージを受け止め、人生が豊になり楽しく送れるようにしたいと思っています。

◎写真は昭和30年の松竹大船撮影所風景。

『撮影カメラ』は日本映画史と共に歩んできた松竹大船撮影所で活躍したカメラです。現在、大船駅前の交差点「松竹前」の近くの鎌倉女子大学構内（大船映画撮影所記念館）に展示されています。「男はつらいよ」シリーズなどの名画の撮影で活躍しました。

